

BE WILD

2008.12 活動報告
日本ボーイスカウト阿見第1団
<http://www.bs-ami.net>

気づきから実行へ

●あけましておめでとうございます

BE WILD 編集長
中島 清行

昨年は皆様方のご支援をいただきまして、誠にありがとうございました。本年も本運動、そして阿見第1団へのご支援ご協力の程よろしく願い申し上げます。

さて、この「BE WILD」は、昭和63年から約12年間に亘り、阿見第1団の各隊の活動の様子や団委員会の動き等団全体を見渡せる機関誌として作成されました。その後、PCの普及とともに各隊で通信紙を作成することになり、その役目を譲りました。

しかしながら、ちょっと前から、隊と隊のリレーションが以前ほど密ではなくなってきたようだと、育成会の皆さんに月々の各隊や団の活動の内容が伝わっていないようだと、という声が聞こえてきました。実は、そのことは

団委員も指導者も感じていることだったのです。そこで、今年度から「BE WILD」が復活させ、各隊や団の月々の活動内容の報告をすることにしました。

「気づきから実行へ」がスカウト運動のキーワードのひとつになっています。まさにこれを実行したわけです。「実践躬行」や「Learning by Doing」の言葉がボーイスカウトの教育の方法を示唆していますが、いずれも自らの「気づき」があることによって効果が現れます。班や組の活動も進歩制度もちろん日々の生活も「気づき」が大切なことは解っていますよね。

また、「気づく」は建築の「築く」に繋がると考えたいですね。口に出した時はどちらも「きづ(ず)く」ですから。

これはネットワークを築く、相談の窓口を築く、人と良い関係を築くことでもあります。団や隊の活動、家庭と団や隊の関係において、気づき、築くということがさらにできるように、今年もがんばっていききたいと思います。

そして、この「BE WILD」がその一助となれば幸いです。



団の12月の活動 その1 クリスマス集会

12月21日(日)に、本郷ふれあいセンターで、団行事であるクリスマス集会を実施しました。

今年は趣向を変え、今までの「劇」中心でなく、歌や音楽を中心とした活動になりました。ベンチャースカウトの司会でプログラムは進行しました。リーダー有志による「じばろーバンド」の迷演奏、ビーバー隊・カブ隊・ボーイ隊の出し物は、映画の影響か「ぼにょ」一色? ボーイ隊レディーズによるパフォーマンスには感動を覚え、カブ隊リーダーの怪しい出し物に失笑し、初の試みになる育成会有志による「アルゴリズム体操」に拍手喝采。若泉団委員長による「アンノウン・ソルジャー」の話にスカウトのすばらしさを確認し、最後にプレゼントを貰って、今年のクリスマス集会は大成功に終わりました。



● ビーバー隊

今日は団行事のクリスマス集会です。

みんなで一所懸命に練習した「崖の上のポニョ」と「あわてんぼうのサンタクロース」を歌いました。

自分で作ったお面をかぶり、とてもかわいく踊っていました。

カブ隊やボーイ隊、リーダー達やお父さん、お母さんたちも負けていませんでした。

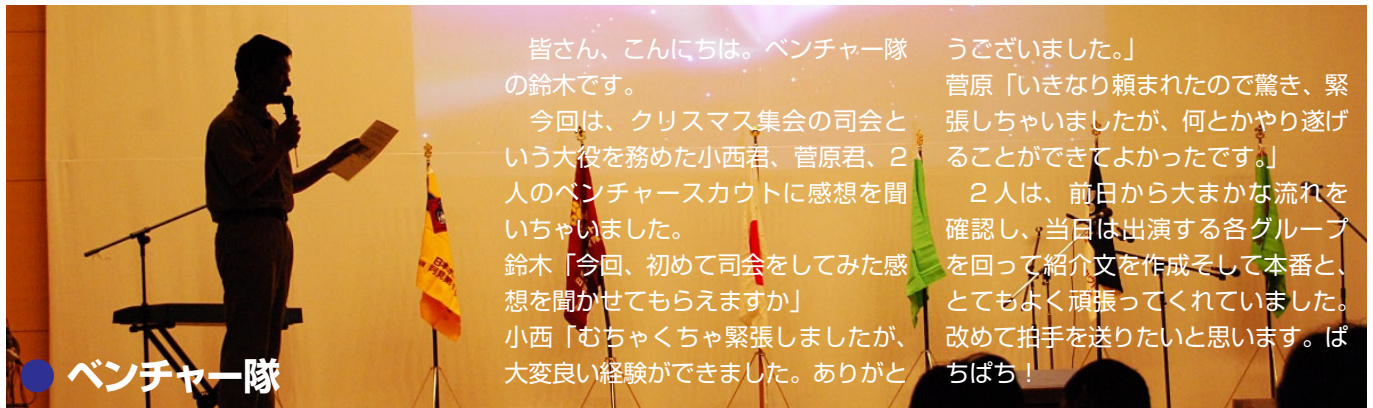
よくがんばったので、サンタクロースさんからのプレゼントと、ケーキ・クッキーをもらいました。



● カブ隊

12月のカブ隊は、がんばりました、やりました、5週連続の隊活動。正確には、11月の最終週からなんですが、クリスマス集会に備えて各組ごとの出し物、ポスター作り、老人ホーム慰問時の歌の練習、プレゼントのミニ松飾り作りと、もう次から次へ休むヒマがないとは、こういう事なのかって思うくらいいろいろなことにチャレンジしました。みんなのこのひたむきな努力の積み重ねが、本番のクリスマス集会、老人ホーム慰問で一気に花開き、一年の締めくくりにふさわしい、活動となったと思います。みんな楽しんで充実したいい顔になって、そして、人のためになることの尊さを実感したのではないのでしょうか。





● ベンチャー隊

皆さん、こんにちは。ベンチャー隊の鈴木です。
 今回は、クリスマス集会の司会という大役を務めた小西君、菅原君、2人のベンチャースカウトに感想を聞いちゃいました。
 鈴木「今回、初めて司会をしてみた感想を聞かせてもらえますか」
 小西「むちゃくちゃ緊張しましたが、大変良い経験ができました。ありがと

うございました。」
 菅原「いきなり頼まれたので驚き、緊張しちゃいましたが、何とかやり遂げることができて良かったです。」
 2人は、前日から大まかな流れを確認し、当日は出演する各グループを回って紹介文を作成そして本番と、とてもよく頑張ってくれていました。改めて拍手を送りたいと思います。ぱちぱち！



● ボーイ隊



ボーイのみんなも各班、それぞれ特徴のある出し物を見せてくれて、大いに楽しませてもらいました。

最初は乗り気じゃなかったスカウトもいたようだけど、午前中の練習ではみんな振り付けや台詞をしっかりと練習していて、真剣に取り組んでいる様子が伺えました。この調子で、来年のキャンポリーでは、会場の人々を楽しませてください！

● 今回のテーマは「思いきり弾けよう！」でした。大いに弾けていたのは・・・この方々!!



団の12月の活動 その2 老人ホーム訪問



12月23日にビーバー隊とカブ隊と一緒に特別養護老人ホーム「みほ」を訪問しました。

おじいさん、おばあさんと一緒に大きな声で歌い、ゲームをして遊びました。みんなの元気が、おじいさん、おばあさんを楽しませてくれたと、とても喜んでいましたよ。

今年はミニ門松をプレゼントし、とても楽しい時間を過ごせました。



BVS 隊の 12 月

● 収穫祭

12月7日の隊集会では、飯塚副長に作っていただいたダイコンをみんなで一所懸命引っこ抜きました。大きなダイコンが100本以上あり、大収穫でした。みんなも、きっとお家で美味しいダイコンのお料理を作ってもらったことでしょう。ダイコンが嫌いなスカウトもありますが、好き嫌いせずにいっぱい食べてくださいね。

隊長もその晩は、おでんを食べました。とても美味しかったな～。収穫祭の後には、クリスマス集会へ向けて、歌の練習をしました。最初は恥ずかしそうなスカウトもいて、声があまり出ていなかったけれど、最後はみんなそろって大きな声で歌えていました。クリスマス集会が楽しみです。

VS 隊の 12 月

● 八咫烏（やたがらす）結成

12月20日（土）の隊集会において、クリスマス集会の打ち合わせとともにある重要事項の決定がなされました。

ある重要事項とは、ベンチャースカウトの意地とプライドをかけた猛レースである「ベンチャーラリー」に出場する際の阿見第1団ベンチャー隊のチーム名です。

決まったチーム名は、「八咫烏（読み：やたがらす）」です。八咫烏とは、日本神話に登場する伝説上のカラスで、3本の足を持ちものすごい速さで空を飛べたということです。

また、「ベンチャーラリー」競技中は、チームのシンボルとなるデザインをされたチーム旗の携行が義務付けられているのですが、私たちはチーム名にちなんで八咫烏を描いたチーム旗とすることにしました。

「ベンチャーラリー」は、今年度から実施されるベンチャー以上を対象とした競技会で、その誉れある第1回が、ここ阿見の地で開催されるのです。

当日は、チーム名に負けない様、八咫烏のごとき速さで地を駆る阿見第1団ベンチャー隊の活躍に乞うご期待です（ちなみに、阿見1アスリートチームとメタボチームの2チームも指導者部門に参加を予定しています）。

●特集 ビーバースカウト隊の紹介



ビーバースカウト活動とは、自然と親しみ、多くの仲間や地域の人たちとのふれあいを大切にするボーイスカウトの活動です。小学校入学直前の9月から小学2年生の8月までの児童を対象としています。

さて、なぜ、「ビーバー」という呼称になったのでしょうか？

①この年代の児童にとって親しめる動物で、カブ隊が使う動物の名前と区別できるものであること。

②その呼び方は語感がよく、児童にとって呼びやすく、覚えやすいこと。

③その動物の特徴が容易につかめ、形にあらわしやすいこと。

④かわいらしい動物であり、しかも、その動物の生態が児童の教育上、ふさわしいものであること。

以上の条件を考慮し、「ビーバー隊」の呼称が生まれたのです。

ビーバースカウト活動は、児童の特性を十分に踏まえて、その成長やこの年代に応じた社会性を高めるために、みんなとともになかよく遊ぶ、自然に親しむ、楽しみや喜びをわかちあうことにねらいを置いています。

また、ビーバースカウト活動は、神（仏）と身のまわりの人たちについて認識させ、自然に親しませ、表現力を伸ばし、所属する喜びを味わわせ、深く考える力を育て、健康と安全について認識させ、活発に活動させ、体験を通じて学ばせ、愛と感謝の心を育てることを目標としています。戸外や自然の中でのゲーム・話・簡単な工作・運動・劇・歌などを通じて、これらの目標を具現化していきます。

ビーバースカウトには、「ビーバースカウトのやくそく」と「ビーバー隊のきまり」を定めています。

〈ビーバースカウトのやくそく〉

○ぼくは（わたしは）、みんなとなかよくします。

○ビーバー隊のきまりをまもります。

〈ビーバー隊のきまり〉

1. ビーバースカウトは、げんきにあそびます。

2. ビーバースカウトは、ものをたいせつにします。

3. ビーバースカウトは、よいことをします。

これらは「自分に対するつとめ」を中心に設定しており、ビーバー隊のきまりは、スカウト一人ひとりが自分のつとめとして実行して、始めてその意義は果たされるのです。

また、「なかよし」をモットーとし、優劣にこだわらず、つねに仲間となかよくし、すべてをわかちあいます。

そして、「日々の善行」をスローガンに掲げ、この年代にあっては、奉仕よりも感謝の気持ちを行動の中であらわすことを重視しています。

仕上がり形を強制するのではなく、こっそりと援助しながら「ぼく（わたし）にもでき たぞ」とか「いっしょにすることが楽しい」という意識を持たせ、スカウトなりの満足感や充実感・成就感を自覚させる工夫を重ねれば、多少の困難はあっても「楽しかった。この次も来よう」という望ましい姿が見られるものと思っています。

スカウトたちは数多くの新しい体験を通じて、たくましく成長していくものなのです。

阿見1団ビーバー隊は、隊長：鈴木、副長：飯塚・高橋・内田・若泉・杉澤6名の指導者で活動を行っております。

我々ビーバー隊リーダーは、ビーバースカウト一人ひとりの特性を把握し、安全に配慮しながら、楽しい活動を用意し、スカウトにやる気を起こさせ長所を引き出すように配慮し活動していきます。そのためにも、団・隊の指導者をはじめ、保護者・地域の人たちとよいコミュニケーションを保ち、お互いに協力していけるよう努めていきます。これからも、ビーバー隊をよろしくお願いします。